



生活支援体制整備事業

お互いさま ひろお通信

「地域づくりから育つひろおの支え合い」

第12号 2020年 2月

固く結ばれた男の友情

被災地でも輝く2人の絆

お互いのことを「すすむ」「としおちゃん」と呼び合う2人の男性。名前は**久保進さん**と**篠島利雄さん**。2人は昨年の台風19号で被災した宮城県丸森町にてボランティア活動を行いました。今回はボランティア活動のことを伺うと、**2人の素敵な関係性**が見えてきました。

2人は青年時代から畜産業に携わり、当時は顔を合わせたら挨拶をする程度でした。交流が深まったのは、久保さんが仕事を辞め、時間に余裕ができたタイミングで、篠島さんが釣りに誘ったのがきっかけです。

「仕事を辞めてすぐに誘ってくれたから、体力が落ちることなく始めることができた。毎年受けている健康診断の結果も、ここ10年では1番良かった」と久保さんは話してくれました。2人の交流が始まってからは、知床に行ったり松前にマゲ

ロを釣りに行ったりしているとの事でした。篠島さんは「以前から釣りに行っていたが、こんなに遠出することはなかった」と言います。

さらに、釣りの打ち合わせ、釣りが終わった後には釣果を久保さんの携帯に記録する為に**毎日電話**



2人の絆に育っていた実



をしているそうです。「そういえば今日電話していない」と思いソファに座ったら電話がかかってきたことがあった」というのに対し「まさに**以心伝心**だな」と笑いながら話してくれました。

2019年10月、台風19号が日本を襲いました。被災した地域の様子を見て、「アキアジ釣りで遊ばせてもらったから、自分たちに何かできる事があれば力になりたい」と思い立ち、情報を調べすぐに行動に移しました。

現地に着いてからは4日間、主にダンプカーや軽トラの運転手として、災害ゴミや泥を片付けました。帰宅の際、そのまま広尾に帰るのは少し寂しいという事で、丸森町に戻って募金をしてきたそうです。

今回のボランティアについて「**すすむ(としおちゃん)じゃなかったら行かなかったかもしれない。災害がないのが1番だけど、もしもの時はまた行きたい**」とのことでした。

今回取材しているときも、2人の仲の良さが伺えました。これからも、男の友情を大事に楽しい時間を過ごしてほしいと思います。